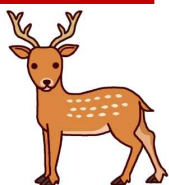


地域のもりから学ぶ森林づくり 2015

「森林の生物多様性を学ぶ」 第一回森林教室

第1回森林教室は、5月11日（月）に定山溪国有林2441林班及び旧三笠山スキー場跡地で実施しました。今回は「身近な自然を見に行こう」と題して、定山溪の身近な自然や森林を観察することを目的に実施しました。



まず初めに、近年、北海道内で問題となっているエゾシカによる被害が定山溪にも影響がでてきていることから、その実態を調査することとしました。

被害地周辺の住民の方に話を聞くと、「2～3年前頃からエゾシカが現れるようになった。」「夏は、作物が食べられ、冬は家周辺の樹木の樹皮が食べられている。」とのことでした。



今回は、樹木の被害状況について被害にあっている樹種や樹木の状況などを調べてみました。

ヤナギやナナカマド、クルミなどの高さ1.5m～4.0mの箇所樹皮が食べられていました。

被害箇所の積雪が2m程度だったと思われます。

木は枯れてしまうのでしょうか？



次に、自分たちが守ってきたカタクリやエゾエンゴサクの群生地であるスキー場跡地（草地）にどのような種類の植生が生育しているのかを調べてみました。



カタクリ

エゾエンゴサク



今回はカタクリが215個、エゾエンゴサク400個で全体の約7割を占めていました。
みんなで守り呼びかけてきたことがカタクリなどがたくさん咲き誇る群生地としての成果が出てきたようです。多くの方々がこの景観を見に来るようになりました。



定山溪の街の周辺には、この他にも豊かな自然がたくさんあります。

是非、森林を散策してみましよう。

今後の日程

〇6月3日（水）

第2回森林教室

定山溪の森を学ぶ

〇7月22日（水）

第3回森林教室

森を知り、森を育むなど

